

令和5年度第2回大府市環境審議会 議事録

日時：令和6年3月8日（金）

午後2時から午後3時30分

会場：大府市役所 地下会議室 001

＜委員出席者＞ 14名（敬称略）

千頭聡（日本福祉大学国際福祉開発学部教授）、西村和子（大府市教育委員会教育委員）、村瀬由理（大東小学校再任用・教諭）、渡邊省吾（愛知県知多県民事務所環境保全課課長）、吉村比富（区長会会長）、倉元須麻子（大府市地域婦人団体連絡協議会会長）、加古多美子（あいち知多農業協同組合女性部大府地域部長）、間瀬計行（大府商工会議所事務局長）、小椋和美（大府市生活排水クリーン推進員）、坂野好子（バンノ自動車商会代表）、深谷多恵子（株式会社みどりや）、近藤隆幸（株式会社豊田自動織機安全・総務部環境室室長）、相木徹（オオブユニティ株式会社代表取締役）、横山真弓（市民）

1. 開 会

・千頭会長より挨拶

2. 議題

（1）令和6年度一般廃棄物処理実施計画（案）について

【事務局】

資料1について説明。

【委員】

プラスチック資源が週1回の回収になり、一人暮らしの世帯から小のごみ袋でもサイズが大きという声がある。さらに小さいものを作ることはできないか。

【事務局】

過去に検討したが、小さいサイズを作った場合、購入ロット数が少なく却ってコストが上がり、他のサイズの販売価格で調整することになるため、現在は見送りとなっている。

【委員】

生ごみの減量や資源分別を徹底するとかなりごみの量が減少するため、コストはかかるかもしれないが、ごみを減量するという観点では小さい袋は有効ではないか。

【委員】

指定袋でない袋でも可燃ごみを出せるようにすればよいのではないか。

【事務局】

管理が行き届いていないごみ収集場所では不法投棄の問題もあり、袋が指定されていないと収集対象の判断がつきにくいいため、指定袋を採用している。

【会長】

ごみ処理費用の有料化（指定袋原価への上乗せ）が全国的には議論されている。

【事務局】

知多半島では有料化により 1 枚当たり 50 円程度になっているケースがある。大府市では石油資源の削減という観点からバイオマスごみ袋を導入している。

【委員】

現在の指定袋が非常に破れやすい。袋の品質について検討いただきたい。

【事務局】

破れやすくなった一つの理由は、袋の形状変更と考えている。製造業者と調整し、仕様変更を検討している。

【会長】

破れにくい開け方を広報してほしい。

【事務局】

新しいロットのものについては袋本体に開け方を記載している。

【委員】

自社でプラ回収を行っているが、プラスチックの中にペットボトルが混じっていることが多い。市民への理解促進をしていただきたい。

【委員】

調味料の空き瓶はペットボトルの記載があってもプラに出されているケースがある。その部分も併せて啓発していただきたい。

【委員】

災害廃棄物対策について、住民の役割や連携に基づく災害廃棄物の円滑な処理とは具体的に何か。

【事務局】

住民の役割とは行政が指定した場所への適正廃棄や自治区等と行政との連絡体制を指しており、行政・事業者は協力しながら廃棄物を処理することを示している。具体的には、東海豪雨の際は当該地域の自主防災会（自治区）から市役所に連絡をいただき、各世帯玄関前での回収を行った。

【委員】

おもちゃリサイクルの回収ボックスを児童センター等、子どもが来やすい場所におく予定はあるか。

【事務局】

周知のしやすさの観点から、既に小型家電回収を行っている公民館を拠点としている。

【委員】

リサイクルではなくリユースする方法はあるか。

【事務局】

おもちゃリサイクルは民間事業者の行うリサイクル実証事業を大府市で実施しているため、リユースではなくリサイクルに焦点を当てている。

【会長】

壊れたおもちゃを集めているのか、不要になったおもちゃを集めているのか。

【事務局】

どちらも回収対象としている。

【委員】

不要なおもちゃの回収と使えないおもちゃの回収のすみ分けをして啓発すればリサイクル・リユースも進むのではないか。

【委員】

活動団体が昨年から公民館で生ごみの減量推進に関する講座を実施しているが、次年度以降も継続して活動するので今後も参加してほしい。

3. その他

(1) 第3次大府市環境基本計画の見直し（案）について

【事務局】

資料2について説明。

【委員】

事業者からは交通インフラの整備・円滑化も二酸化炭素削減に寄与するという声も挙がっている。今回の計画にもその内容を盛り込む等検討いただきたい。

【事務局】

検討させていただく。

【委員】

温室効果ガス係数が高い冷媒が使われているエアコン等について情報を提示していただくとよいのではないか。市内循環バスの拡充や利便性向上も道路交通の円滑化につながるのではないか。

【事務局】

いただいたご意見を参考に、事業者への情報提供の内容を検討していく。市内循環バスについて、環境分野の意見を述べる場があれば随時担当部局に情報展開を行う。

【事務局】

国の目標では「温室効果ガス 46%削減を目指すこと、さらに 50%の高みに向けて挑戦を続けること」を掲げている。それを踏まえ、本計画の目標値の見直しを検討しているがどうか。

【会長】

首長誓約に誓約しているのであれば、政府目標 46%を上回るさらなる高みに向けた目標

が必要ではないか。高い目標を達成するための計画の中身も併せて検討してほしい。農業分野を気候変動対策に入れる等の多面的な検討をしたほうがよいかもしれない。

【事務局】

計画案に盛り込んでいる内容は、各課が実施している環境関連事業をピックアップしている。多面的な視点で本計画に反映できるよう検討していく。

【会長】

公共交通は市を超えて地域単位で計画すれば、より効果的な経路ができるかもしれない。

【委員】

東海市や豊明市から大府市に通勤される方も多し。そういった観点を公共交通の検討時に持つとよいかもしれない。

【事務局】

本計画は令和6年12月に臨時の環境審議会を開催し、正式に改定を行う予定である。

(2) バイオマス産業都市構想 期中評価（案）について

【事務局】

資料3について説明。

【委員】

自身が生ごみ分別回収に参加していて、自分たちの取組が環境に貢献度が高いと実感している。これからも取組を続けてほしい。

【会長】

生ごみ収集地区は増やさず、地区内の参加世帯を増やすという事か。

【事務局】

その通りである。

【委員】

環境教育の浸透について、バイオマス肥料だけでなく、アスパやダンボールコンポスト等、生ごみ由来の他の肥料も併せて啓発をしてほしい。

【委員】

保育・幼稚園児対象の環境講座は、イベント等と合わせての実施や、児童センターや小学校等で実施している事業と一緒に進めると効果的だと思う。

【委員】

週に2トン程度生ごみの回収ができています。バイオマス発電の原料の組成により、ガスの発生量等が変わるため、事業系の廃棄物が減ってきた際の運用が課題である。

【委員】

分別回収した量や成果を市民に周知していただきたい。